

令和 7 年度 宝塚市自立支援協議会 専門部会活動結果報告書

●けんり部会活動結果報告・・・・・・・・・・・・・・・・	1
●くらし部会活動結果報告・・・・・・・・・・・・・・・・	11
●しごと部会活動結果報告・・・・・・・・・・・・・・・・	21
●こども部会活動結果報告・・・・・・・・・・・・・・・・	35
●事務局会議・・・・・・・・・・・・・・・・	42
●特定相談支援事業所連絡会・・・・・・・・・・・・・・	43



令和 8 年（2026 年）3 月
宝塚市自立支援協議会

● け ん り 部 会 活 動 結 果 報 告

第 1 回 けんり部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 6 月 17 日(火) 13:30~15:30 4階 大会議室
出欠者	出席者:14 名 欠席者:2 名
議題	内容(決定事項等について)
1. 常任委員紹介	・常任委員自己紹介。 ・部会長、副部会長選出、承認。
2. 全体会の報告	・事務局より、「令和 6 年度第 2 回宝塚市自立支援協議会全体会」について報告。
3. 宝塚市自立支援協議会について	・事務局より宝塚市自立支援協議会・組織図について説明。 ・宝塚市の理念は「障碍(がい)のある人が自立し、安心して暮らせるまちづくり」。 ・今年度より障碍(がい)福祉基金活用検討会が発足。7 月 18 日(金)に第 1 回を開催予定。
4. 地域移行支援事業の進捗について	・事務局より報告。 令和 6 年度の実績は、病院 9 件、施設 1 件。令和 5 年度は病院 2 件、施設 3 件であり、総数として実績件数が増えている。令和 7 年 5 月末現在で昨年度から継続支援が 1 件あり、新規相談も 4 件入ってきていることから、今年度も地域移行支援事業及び退院支援については積極的に取り組んでいきたいと各委託相談から声が上がっている。 今年度より、新規相談経路の把握や支援状況、退院先等についても細分化し把握していく予定で、実践の中から見えてきた課題については事務局会議で共有し、けんり部会でも報告できるよう考えている。 【質疑応答】 ・地域移行支援事業の対象者は 1 年以上入院している人となるのか。 ⇒1 年以上入院している方以外に、再入院リスクの高い方、入退院を繰り返す方、1 年未満でもこのままでは社会的入院が継続される可能性が高い方などについては対象となる。昨年度の支援実績にはこのような方も含まれる。 ・実績とは、支給決定された件数と捉えてよいか。⇒その通り。
5. 昨年度の振り返りと今年度の取り組みについて意見交換	・事務局より、令和 6 年度第 2 回宝塚市自立支援協議会全体会けんり部会の資料を抜粋し振り返りを行う。 【今年度の取り組みについて意見交換】 ○意思決定支援

	・意思決定支援は難しい。なかなか本音を言えない方やその場の雰囲気が発言を変える方もいる、親であっても本音は分からない。本人に代わり親が全て決めてきた時代もあり、本人は選ぶ経験すらなかった。知らないを選ぶことはできないし、経験しないと選べない。意思表出できるよう支援を考えても、時間も労力もかかる。 ・本人に退院意欲があっても、精神年齢が幼く、長年引きこもり生活であったことから病院でも何もできない方がいる。主治医は「何とかなるのではないか。」と言うが、退院後の支援を考えたときにヘルパーがずっと一緒にいられるわけでもなく、サービスの支給量にも限界はある。カンファレンスを開き、病院内の支援者も集まり話はするものの、アプローチに悩んでいる。家族の不安も大きい。⇒中間施設のようなところがあればよいのだろうか。具体的にどのようなところがあればよいか議論することも一つかもしれない。家族だからといってすべてを担う必要もない。 ・医療保護入院の方など、どこまで本人の意思決定に沿えるのかと考える。意思表出があったとしても、本人の特性や疾病を考えた時、本当にそれでよいのかと思うことがある。 ・近年、意思決定支援と言われるようになったが、法制度的に大きく変わっているようには感じない。A か B という選択肢だけではなく、サポートがあればもっと多くの選択肢から選ぶことができるのではと感じるが、現実的には難しいとも感じている。 ・自分で決めたとしても、意思は変わってくるもの。一度決めたら終わりと思うと、難しいと思う方もいるのではないか。その時々でいろんなルートが選べたらよい。 ・気管切開を主治医から問われた時、本人が意思表示することが難しかったことから、本人に代わり高齢のおばが「かわいそうだからしない」と返答した。このおばも病状理解ができていなかったと思われるが、本人は病状が悪化し亡くなってしまう、意思決定のもどかしさを感じた。医療同意は本人のことを一番わかっている人に、本人ならどう言うだろうかと考え返答してほしい。 ・支援につなげようと思っても、本人が拒否すると支援に入ることができない。法に触れる恐れのあるような問題行動がある方など、本人の意思や意向をどこまで尊重する必要があるのかと葛藤もある。意思決定支援を皆同じベースで考えることは難しい。 ⇒本人の拒否があっても、家族と繋がることができれば支援につなげていく機会を探ることは可能。家族にも困りがあり、家族を矢面に立たせることをしないことも大切で、家族は最後の手段と捉えることも場合によっては必要と以前に研修で学んだことがある。
--	---

	・意思決定支援において、本人の希望を聞いていくには時間がかかる。本人の困り感を引き出していくことにもなり、聞いていくことは大切。 ○成年後見制度 ・8050 問題の一つとして、親亡き後の相談から成年後見制度の利用を検討することがある。親は「最期までみてくれる先生（専門職）を」との思いが強く、本人とのマッチングを考えて先生とつなぐのだが、親の期待とのミスマッチに悩んでいる。 ・金銭的課題のある方が精神科病院から退院するとき、退院条件として成年後見制度の利用を言い渡される時があるが、本人は制度利用に乗り気ではなく、なかなか話が進まないこともある。 ・成年後見制度を利用している施設利用者がいるが、成年後見人により動きの差異はある。頻回な面会と、本人と一緒に外出に出かける方もいれば、必要最低限の面会のみの方もいる。 ・成年後見制度は法律が変わろうとしているところにあり、状況を見ながら話をしていきたい。 ○その他 ・障碍（がい）種別により、公共交通機関の割引制度に格差がある。割引があれば外出先が広がる等の声を精神障碍（がい）の方からアンケートで聞き取っている。 ・短期入所の標準支給量は市によって違う、施設入所の方の移動支援の利用可否も市によって違う（宝塚市は利用不可）。福祉サービスに市町村格差がある。 ・本人の問題行動などで悩む家族が、相談先が分からないケースがまだある。状況に応じ、保健所や障碍（がい）福祉課などを伝えるが、どうやったら相談窓口を広められるかと思う。 ・災害時要援護者支援制度について、計画相談の相談員にも協力を求めながら、まずは自身の避難場所がどこか知ってもらうようにしたい。 ・防災の取り組みは地域差があるのではないかな。 ・防災だけではなく、地域での暮らしを考えた時、障碍（がい）者理解が大切になるのではないかな。知らないから怖いなどの思いが出てくる、どう声をかけてよいのか分からない。日ごろの地域との触れ合いが大切になると感じる。 ※今年度の協議テーマについては、挙げられた意見も参考に事務局で検討し、次回提案することとする。
--	--

第 2 回けんり部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年 8 月 19 日 (火) 13:30~15:00 会議室A
出欠者	出席者:15 名 欠席者:2 名
議題	内容(決定事項等について)
1.地域移行支援事業の進捗について	・事務局より報告 地域移行支援事業 支援中の件数 病院:0 件 施設:0 件 地域移行支援事業 支援終了の件数 病院からの退院:1 件 施設からの退所:0 件 病院:昨年 10 月から K 病院で地域移行支援を利用していた方が6月にグループホームに退院済み。特定相談からの依頼で O 病院(8月~)、T 病院で地域移行支援を予定。A 病院から打診があり、8月から地域移行支援を予定。 施設:特定相談からの依頼でなくさ育成園にて8月から地域移行支援を予定。 地域移行支援を行うにあたり、利用者に説明するパンフレットがあるとよいと声が挙がったことから、事務局会議にて現在パンフレットを作成中。完成した際には、けんり部会でもお披露目を予定。 ・質疑 K 病院からの退院のケースで、グループホームへの退院など支援を行うにあたり困ったこと、悩んだことは上がっていたか。支援してきた結果を教えてください。→詳細はわからないが、本人と何度も宝塚市に足を運び、どのような地域なのか知る機会を持つことで、どこでどのように暮らしていくのかを考える機会となったと聞いた。
2.意思決定支援について	部会長より講義
3.グループワーク	※これは事例検討ではない。この話を聞いたあなたがどう考え、A さんに返していくのかをグループ内で出し合う。また、このワークには正解はない。思ったままに意見を出し合ってほしい。 【架空事例】 48 歳の独り暮らしの A さんが「もうお金が 1,000 円しかない。今からパチンコに行って増やしてこようと思っている。」と話した。この話を聞いたあなたはどのように思うか、どうしていくかをあなたの立場で考え、意見を出してほしい。2 グループに分かれ、グループワークを実施。 【A グループ】 ・「次いつお金が入るか。」「本当に困ったとき、どうするのか。」「パチンコに行って今まで成功したことあるのか。」「これからどう生活していくのか。」と状

	況確認をしつつ、まずは本人の意向を確認する。否定することなく、本人の思いに寄り添いながらも、必要に応じて生活保護、せいかつ応援センター、フードドライブなどの情報提供をしていく。 ・本人が失敗しながらも学べるような支援を考えていく。 ・本人が納得するやり方で、優先順位を整理していく。一緒に考え、本人を否定しない。 ・本人の思い描く状況に対し、どのような選択肢を提示できるかが大切。 【B グループ】 ・本人の発言を否定はしないものの、「いつもやっていることなのか。」「食べ物あるのか。大丈夫か。」「助けてくれる人はいるか。」「次いつお金入ってくるか。」「勝てなかったらどうするのか。」と思うことはたくさんある。 ・「あなたのことが心配」と伝えたくて、勝っても負けても教えてほしいと関わりが途切れないよう声掛けをする。本人から「困っている」とあれば、せいかつ応援センターなど支援につなげることを考える。 ・そもそもなぜパチンコをするのだろうか、日中の過ごし方などの話を聞いていく中でみえてくるものもあるかもしれない。 ○部会長より講評 両グループともに、A さんの意向を頭ごなしに否定しない意見でありよかった。今後も引き続き相談を受ける関係性の構築のためにも、否定しないことは必要。グループワークで挙げたすべての意見が A さんとの関わり方の入り口としてよいと思う。 相談を受けた人と A さんとの関係性は事例からはわからないが、A さんから言ってきた。これは A さんが SOS を求めてきた可能性があると考えられることもできる。 この事例では A さんに寄り添った意見が出されたが、A さんのお金を管理する立場にあるとしたらどうだろうか。同じ意見が出たかはわからない。 保護と意思決定支援の関係性を考えるためにも、いろいろと話を聞くことは大切。パチンコに行く理由は何か、行くことが目的か、お金を増やすことができない可能性があること、本当に増やせそうと思っているのであればそのリスクについて伝える必要もある。行くことが目的であれば、今の状況では行っている場合ではないと説明しつつ、代替手段がないか考え伝えていく必要もある。伝えていくためには関係性ができ、提案できることが前提になる。 ○グループワークを行っての意見・感想など ・毎日やることがない、生活に張りがない、喜びを感じることもない。故にパチンコに行ってしまう、際限がなくなり止めるすべがなくなった人が実際にい
--	---

	た。お金の問題だけでなく、なぜパチンコに行くのか理由を考えることも一つ。この人にとってのパチンコとは何か。 ・この事例では、Aさんは自分を見てほしいと感じた。 ・グループワークでは、どこまで想像して考えることができるのかを試されていると感じた。たくさん考えるきっかけとなった。 ・「どこかにつなぐ」との意見が出たことがすごいことだと思った。 ・本人が納得するように話をしていくこと、信頼関係を作るためにも不安にさせないことが大切で、日常においても必要なことだと感じた。 ・本人を否定しない声掛けは、分かってはいるが葛藤を感じながら日々支援をしている。 ・本人の経験値や価値観からの発言が出てくる中で、支援者がいかに選択肢を提示できるかが大切になってくると感じる。 ・今回の事例のような相談は警察ではよくある。言ってくるということは SOS を出していることと考えるようにしている。状況確認は必要で、本人の話を聞く姿勢が大切。支援につなげていくためにも、市役所の各課の役割を覚えるなどもしているし、実際に支援者と顔が見える関係が築けていることもありがたい。支援者同士のつながり、輪を広げることも大切。 ・本人の気持ちからスタートするが、こちらの思いや考えを伝えることで本人の気持ちが変わる可能性にかける時もある。誘導的にならないようにとは思っているものの、葛藤もある。 ・就労継続支援 B 型事業所で働いているが、利用者から相談を受けることもある。日常でどうしたいと聞かれることもあるが、なかなか自分の立場で返答することが難しいことも多く、事業所の職員や相談支援の人に相談するよう告げたりしている。けんり部会に参加することで考える機会、知る機会としていきたい。 ・状況によってかわり方は変わるため、一概には言えず難しいと感じる。 ・今は SNS など含めきらびやかで、欲望を刺激する社会だと感じる。その中で関係性を作ったとしても折衷案や代替案を出せるか、難しいと感じる。 ・周りは困りを感じているが、本人が困りを感じていない場合の関わりについて悩ましく感じる。関係性を築く中で伝えたとしても、本人が望まないことはできない。介入タイミングを見ていくしかないと思うが難しく悩ましい。 ・「なんでお金がないのか。」「これからどうしていくのか。」が先に浮かんだ。寄り添っていくことから始めることが大切だと感じた。 ・今回は参加者が「本人を否定しない」という同じスタンスであったが、仮に家族から違う意見が出ると難しくなる。 ・本人中心に考えたとき、いろんな意見が出ると感じたし、初心に帰ることが大事だと感じた。
--	--

	○部会長よりまとめ 本人に否定的なことを言わないことは前提にあるが、お金を使わずにいてほしいと伝えること、誘導することはないが、あからさまに結論を変えようとすることはなしで、これは意思決定支援ではない。本人に決めてもらうための情報提供は必要で、リスクも伝えながらなぜそのようにするのかを伝えていくことが大切。聞き方の意識を持つことは大切で、人は変えようとされると反発するものである。 今日の意見なども踏まえ、今後については事務局と相談し考えていく。
--	---

第 3 回 けんり部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 10 月 17 日 (金) 13:30~15:20 会議室 A
出欠者	出席者:13 名 欠席者:3 名
議題	内容(決定事項等について)
1. 地域移行支援事業の進捗について(令和7年度)	・事務局より報告 地域移行支援事業を利用し支援中は、病院 2 件、施設 1 件。今年度に入り支援終了は、病院からの退院 1 件、施設からの退所 0 件。 ・委託相談より、『本人が「退院したい」と意向を示しているが、キーパーソンとなる家族が難色を示していた』という支援に悩んだケースの共有を行い、質疑応答を実施。基本的に本人の「退院したい」という意向があれば地域移行支援事業は利用でき、家族が反対しても退院するという軸は大切にすること。家族が反対するに至った不安の解消を考え、協力してもらえるように丁寧に対応することが望ましいことを共有した。 ・地域移行支援事業のパンフレット作成について 事務局会議にてパンフレットを作成中。パンフレットは、地域移行支援事業の利用を希望する本人や家族への説明を目的とする。パンフレット案が完成した時には、けんり部会に提示し意見をもらう。
2. 意思決定支援について	・委員の日々の支援や関りの中から、意思決定支援ができたよかったと思うこと、こうしておけばよかったと感じたことを出し合い、意見交換を実施。 ・委員は、けんり部会という場があるから話をして考えることができる。本人から「なんでもっと意思決定支援をしてくれなかったのか」と言われたことはないはずで、これが実は怖いこと。上記文言を言うことのできる人は自分でできる人で、そうでない人が意思決定支援が必要とされる人。自分だけでなく、周りの人とやりながら探っていくことが大切だと部会長よりまとめがあった。

第 4 回 けんり部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 12 月 17 日(水) 13:30~15:05 会議室 A
出欠者	出席者:12 名 欠席者:4 名
議題	内容(決定事項等について)
1. 全体会の報告	・事務局より報告 宝塚市ホームページに議事録掲載予定。 ・質疑 基金活用検討会は今後も継続予定となるのか。 ⇒市長が市民と対話、そして 12 月の市議会でも検討を予定しており、今後については未定。
1. 地域移行支援事業の進捗について(令和 7 年度)	・事務局より報告 地域移行支援事業を利用し支援中は病院 4 件、施設 1 件。支援終了は病院からの退院 2 件、施設からの退所 0 件。 ・地域移行支援事業案内のパンフレット作成について 事務局会議にて検討していたパンフレット案が完成。この会議と入院経験のあるピアサポーターからの意見をもらい完成とする。なお、完成後も毎年見直しを行い、ブラッシュアップを図る予定。
2. 意思決定支援について	前回に引き続き、「意思決定支援ができていたらよかったと思うこと、こうしておけばよかったと感じたこと」を出し合う。 挙がった意見やケースも含め、今後の展開は事務局で協議する。
3. その他	・第 7 回みんなでつくる作品展 令和 7 年 3 月 20 日~3 月 29 日、清荒神にあるギャラリー六軒茶屋にて開催予定。障碍(がい)のある人もない人も、子供からお年寄りまでの作品を募集中。写真を撮っている、絵を描いているなど、興味のある方がいれば案内をお願いしたい。

第 5 回 けんり部会 会議議事録	
日時・場所	令和 8 年 2 月 18 日(水) 13:30~15:15 会議室 A
出欠者	出席者:14 名 欠席者:2 名
議題	内容(決定事項等について)
1. 定例会の報告	○事務局より報告 宝塚市ホームページに議事録掲載予定。

2.地域移行支援事業の進捗について、地域移行支援事業説明パンフレットについて	○地域移行支援事業の進捗について事務局より報告 地域移行支援事業を利用し支援中は病院４件。支援終了は病院からの退院２件、施設からの退所０件。 今年度に退院した方の声：グループホームに退院して半年が経過し、今の生活に慣れてきたが、入院時と比べて何もかもが自由であることが大きな変化。退院は自身の希望する生活のための第一歩。地域移行支援時に関わった支援者と、地域移行支援事業の終了と同時にかわりが終了してしまうと聞いたのが退院直前でとても驚いたし寂しかった。 ○地域移行支援事業説明パンフレットについて 当事者２名の協力を得て意見交換を実施。次回事務局会議で最終案として提示し、共有したうえで使用開始とする。その後は事務局会議にて毎年パンフレットのブラッシュアップを行うことを予定。
3.今年度の振り返りと来年度に向けて	・今年度は意思決定支援を中心に協議してきたが、各委員から意見や感想を述べてもらうことで振り返る機会とした。 ・意思決定支援は個人の価値観や考え方に大きく左右されるものでもあり、他者の意見を聞くこと、やり取りをすることの大切さを感じる機会となった。次年度は計画相談を対象にした意思決定支援の研修や、ワークショップ等の開催に向けた協議を行う。また、ツールを作ることも併せて検討する。 ・委員から来年度に向けて取り扱うテーマの意見もあがった、今後の展開は事務局で協議し、次年度のけんり部会で報告を予定。
4.その他	○情報提供 ・第７回みんなでつくる作品展 期間：令和８年３月２０日（金・祝）～２９日（火） 主催：みんなでつくる作品展 後援：宝塚市社会福祉協議会 ・「精神医療における強制入院との決別 ～精神障害のある人が地域で自分らしく安心して暮らすために～ ロベルト・メッツィーナ氏来日講演」 日時：令和８年２月２４日（火） 主催・共催：兵庫県弁護士会（主催）、日本弁護士連合会（共催）

【今後について】

今年度は「意思決定支援」をテーマに協議をし、けんり部会に参画する委員がそれぞれに日々の関りを振り返り、改めて意思決定支援について考えたことで「気づきの機会になった」との意見が多く出た。意思決定支援は個人の価値観や考え方に大きく左右されるものでもあり、他者の意見を聞くこと、やり取りをすることの大切さを感じる機会ともなったため、次年度は相談支援事業所を対象にした意思決定支援の研修やワークショップ等の開催に向けた協議や、研修等を行うとしてもどのように継続的な取り組みとできるか検討を行いたい。

● く ら し 部 会 活 動 結 果 報 告

第1回 暮らし部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年6月13日(金)14:00~15:30 会議室 A
出欠者	出席者:15名 欠席者:2名
議題	内容(決定事項等について)
1. 自己紹介	常任委員紹介、自己紹介を行う。
2. 説明	基幹相談支援センターより自立支援協議会の説明を行う。
3. 医師会アンケートに関して	○背景・目的 医師会アンケートは、元々かかりつけ医についての議題から始まった。身近に診てもらえる医師がいれば、在宅診療や訪問診療の活用が進むのではという問題意識から、市内の実施医療機関を把握するために実施した。 ○本年度の議論内容(昨年度からの引継ぎ) アンケート結果の活用方法を検討し、障碍(がい)当事者の意見調査も実施予定。 ○事務局(基幹・委託相談)からの意見 アンケート結果は事務局で一括管理し、個々の医療機関に都度確認する手間を軽減する方法はどうか。医療機関名の公表も含め医師会事務局に確認予定。 ○委員からの意見 ・訪問看護や往診の活用で安定した生活を送れている事例もあるので、この結果を共有してもらえると有難い。 ・基幹相談で情報を集約し、計画相談がそこに問い合わせる方式はどうか。 ・医療マップに情報を可視化して整理してみてもどうか。 ・高齢者にも対応できる医療機関情報も一元化する方法はどうか。 ・各地区の委託相談が地域の医療機関情報を把握し、個別支援に役立てるためにも情報の共有をするのはどうか。 ・事務局会議でどんな情報があればいいかを確認するのはどうか。 (例:医療的ケア児の対応をしてもらえるかなど) ・教育委員会が運営する医療的ケア委員会との連携や、その関係者をオブザーバーとして招いてみてはどうか。
2. 障碍(がい)理解の啓発に関して	○背景・目的 ・障碍(がい)者に対する恐怖心等をなくしていく、無関心層への啓発が課題。無関心層へのアプローチが難しく、まちづくり協議会(以下、まち協)・地域と連携しながら検討していく。実施案として、まち協の今年度計画作成に向けて、各団体が行っている障碍(がい)啓発に関する取組みをまとめた冊子を作

	成する方針となった。 ○委員からの意見 ①添付資料について ・宝塚ボランティアプラザ zukavo の福祉学習プログラム集に記載した内容と同一の内容を今回の資料にも記載しているが、記載が主観的で統一されておらず、活用が難しいのではないか。 ・福祉学習プログラムと今回資料の目的を明確に区別し、福祉部の研修などで活用する方法はどうか。 ②計画策定とスケジュール ・今年度は後期計画の見直し年度で、来年3月までに各まち協で計画策定予定だが、まち協ごとに進行が異なるため、情報提供のタイミングや形式に工夫が必要ではないか。 ・この資料は情報量が多く、活用が難しい。内容の整理が必要ではないか。 ・毎月開催している、まち協代表者交流会にて啓発をしてみてもどうか。 ・まち協によって見直しの取組み時期が異なるため、8月にこだわらなくてもよいのではないか。 ③障碍（がい）者の声を届ける仕組みと連携 ・まち協主催のネットワーク会議や障碍（がい）当事者が参加している会議もある。実際に障碍（がい）当事者もイベントに参加する。防災に関連する話題だと障碍（がい）を絡めやすい。 ・表に出にくい方々との関わりや、地域内の相互理解の関係性構築が重要であり、まち協の行事に直接参加して障碍（がい）者への理解を促してみてもどうか。 ④障碍（がい）理解の啓発とイベントへの組み込み ・子どもの頃から障碍（がい）に対する理解を深めることが、成人後の理解を深めるために重要。そのためには学校との連携が必要ではないか。 ・既存イベントに障碍（がい）者との交流を組込む形での取組みが必要。 ・スポーツ協会の協力を得て、養護学校などに視覚的に分かりやすい資料を配布してみてもどうか。
--	--

第2回くらし部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年8月1日(金)14:00~15:30 会議室A
出欠者	出席者:10名 欠席者:2名
議題	内容(決定事項等について)
1. 医師会アンケート(以下ア	○事務局より ・アンケート結果を医師会に返答しようと考えているが、加えてどういう情報を

ンケートと称す) に関して	合わせて伝えていいのか委員の皆様に向う。 ・アンケートで特に訪問診療・往診（行っている・条件に付きで行っている）に回答した診療所を抽出して一覧表にしていこうという提案を行う。 ○委員からの意見 ① アンケートの管理方法 ・アンケートに回答した医療機関名を公表し、医療マップとして活用したいが、公表が難しいのであれば、「条件付きで行っている」「行っている」「行っていないが要相談」と回答した医療機関に許可を取って、情報を集約していく。 - その情報を基幹相談で管理し、問い合わせがあれば、紹介する形はどうか。 ・基幹相談に医療機関の情報があるという周知も大切であり、計画相談や民生児童委員には伝えるのはどうか。相談を受けた方が困った時に相談先の周知が必要。 ・基幹相談と委託相談でデータを持つのが良いのではないか。 ② アンケート結果や活用方法について ・入院患者が退院時に、診療所を紹介する時に（医療機関が頼みやすいところを紹介するため）偏る傾向にある。今回のアンケート内容を踏まえ、居住に近い診療所を紹介していく形になればよいと期待している。 ・訪問診療や往診に特化してしまうと、アンケートを取った意味がなくなるのではないか。アンケートの目的はかかりつけ医がいなくて、急性の病気になったときに障碍（がい）当事者やその家族も受診ができない場合、見てくれる診療所を探そうと始まった。訪問診療＝かかりつけ医となる。 ・急に病気に罹り診てもらおう場合と急に来てほしい場合（往診）を中心に集約するのが良いのではないか。 ③ その他 ・これまでの議論での発言の内容（医療機関のかかり方）をまとめ、障碍（がい）のある方が見て分かるパンフレットを作るか、計画相談で対応できるマニュアルを作る等、形に残すのも一つではないか。 ○今後の取り組み ・アンケートの返答方法は、委員からの意見を元に事務局で検討する。 ・これまでの部会での議論内容（医療機関のかかり方）をまとめる。
2. 障碍（がい） 理解の啓発に ついて	○事務局としての提案（振り返り） ・まちづくり協議会（以下まち協と称す）が行っている会議に委員が参加し、知っていくのはどうか。その時に手持ち資料を活用していく。

	○委員より ①まち協への参加について ・まち協の参加にあたっては、具体的に部会としてどういうアクションを起こすのかを決めてから行くのはどうか。 ・まち協で今後子どもを対象とした取組みを想定しているところに、障害者団体がどのような取組みができるのか説明するのも一つではないか。 ・防災の視点からアプローチするのはよいのではないか。 ・障碍（がい）のある方に避難訓練で声掛けが行われておらず、行事に参加できるよう、声掛けを行うシステムを作る必要があるのではないか。 ・障碍（がい）当事者などに個別案内が難しい場合は障害者団体に声をかけてもらうのはどうか。 ・回覧だけ回ってきてても参加しようとは思わないが、直接声掛けすると参加の意欲が高まる。防災訓練を切り口に啓発するのも一つではないか。 ②障碍（がい）啓発（まち協参加以外） ・障碍（がい）の理解には小さいころから障碍（がい）のある方と触れ合う機会を作るのはどうか。また、障碍（がい）のある方が出向くこと（飛び込めるイベントに参加）も大切だと思う。 ・支援学校ではトライやるウィークで受入れ先がないという話があり、企業や民間事業所への働きかけを行うのはよいのではないか。 ・すみれ隊の活動を民間事業所向けに働きかけていくのもよいのではないか。 ④ 今後の取組み ・防災訓練や地域での活動の情報を収集する。 ・まち協に直接出向き、各団体の取組み内容について説明する。その際の持参資料を修正する。
--	--

第 3 回 くらし部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 10 月 10 日（金）14:00～15:30 会議室 A
出欠者	出席者 9 名
議題	内容（決定事項等について）
1. 協議事項	1. 往診・訪問診療に関して （1）事務局からの報告・共有 ・医師会アンケートについて 回答データ件数を修正し、次回部会までに医師会へ返答予定。 ・パンフレット（案）の説明 パンフレット案は、地域住民向けではなく、相談員向けに作成。

	(2)パンフレットに関する委員からの意見 ①内容について ・「かかりつけ医」の説明の記載があると良いのではないかな。 ・往診の内容については、かかりつけ医の内容を記載する方が良い。 ・「相談支援事業所に相談を…(P2)」の文言は、相談員向けの配布であれば不要ではないかな。 ・文字が多く分かりづらいため、図・イラストがあると見やすい。 ・利用者・通所先にも配布が必要ではないかな。 ・相談者に説明するパンフレットであれば、相談員は医療機関情報をしっかりと把握していくことが必要ではないかな。 ・医療機関の紹介について、医師会で課題となっている。 相談員が知っている診療所を紹介すると特定の診療所に集中してしまう。相談者の住まいの地域ごとに紹介していくことが必要。 ②周知の範囲について ・かかりつけ医を持たない方や、福祉サービスを利用しておらず、相談員とつながっていない方が多く存在している。 ・医療機関・特定相談とつながっていない人への周知も必要ではないかな ③その他 ・各障碍(がい)分野で抱えている課題があるため、困った体験などを集めるのもよい。 (3)今後の取り組み ・委員の意見を踏まえ、パンフレット案の修正と活用方法を再検討。 2. 障碍(がい)理解の啓発に関して (1)事務局より ・当事者が参加できそうな地域活動の一覧を提示。 (2)委員からの意見・共有事項 ①当事者・家族の現状 ・宝塚市肢体不自由児者父母の会主催の講演会で、講師より『当事者が地域の防災訓練に積極的に参加すること』が大切と言われた。参加することで、地域に自分たちの情報を伝えることが可能となる。 ・車椅子の方も参加できるように配慮(動線、駐車場など)をしている地域もある。 ・地域の防災訓練に参加したいと思うが、情報が分からない。 ⇒まちづくり協議会(以下まち協と称す)では広報啓発に力を入れており、イベント情報をまち協のHPに記載している。 ⇒当事者は外出支援等を利用し、イベントに参加してはどうか。 ②関係機関の取り組み ・就労継続支援B型事業所は出店側として地域のイベントに参加している。
--	--

	・市立病院では、地域からの声掛けにより、看護師が健康相談やイベントの際に医療・救護担当として参加することがある。 ・医師会は、地域に対して市民講演などを行っているが、医療のかかり方などの周知が必要と思っている。 ・地域によっては、専門職の話し合いの場に医師が参加することがある。 地域から依頼があれば、参加してくれる医師もいる。そのきっかけ作りが必要である。 ・特定相談も地域活動に参加し、相談員から当事者にも参加促すのもよい。 (3) 今後の取り組み ・次回の部会で地域活動に参加された委員は、報告していただく。
2. その他	10月22日 「親なき後の子どもの在宅支援を考える」の案内。 10月27日 「カンパニユラの夢」上映会の案内。 11月5日 ゲートキーパー養成講座の案内 11月7日 第51回宝塚市社会福祉大会の案内。

第4回くらし部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年12月12日(金)14:00~15:30 会議室 A
出欠者	出席者 10名
議題	内容(決定事項等について)
1. はじめに	(1) 全体会の報告 (2) 告知事項 12月25日 宝塚市総合福祉センター 福祉避難所・受入訓練の案内 2月7日 宝塚医療福祉フォーラム~これからの医療・介護どうなるか~の案内 (3) 前回の振り返り
2. 協議事項	1. 障害(がい)理解の啓発に関して (1) 委員が出店・参加したイベント ・9月13日 レッツチャレンジ・パラスポーツ ・10月22日 コミュニティ安倉 防災訓練(安倉北小学校) ・11月10日 ゆずり葉コミュニティ 合同避難訓練 ・11月23日 宝塚 Ugan 祭り ・12月 6日 障害者記念週間事業 (2) 委員からの意見・共有事項 ①参加した感想 ・地域の防災訓練やイベントでは、障害(がい)当事者および子どもの参加が少なく、参加者は高齢者が中心となっている。

	・障害（がい）当事者に対し、防災訓練や地域イベントへの案内・声掛けができていない現状がある。 ・レッツチャレンジ・パラスポーツでは、看護学校や医療大学へ案内しているが、参加者は多くない。 ・宝塚 Ugan 祭りの会場となった河川敷では、多目的トイレが設置されておらず、案内表示もなかったため、利用面において不安を感じる状況があった。 ・小学校の校舎内にはバリアフリートイレが設置されている一方で、体育館には設置されていないケースが多い。 ②効果 ・子どもは地域の状況（まちに何があるか等）を把握している場合が多く、子どもから防災意識を広げていくことに意義がある。 ・障害（がい）当事者が地域イベントで参加者と交流し、参加者と一緒にゲームを楽しむことができ、自己肯定感の向上につながった。 ・当事者の得意分野を企画に取り入れることで、自然な交流が生まれる機会となった。 ・イベントや大会への参加を通して、自団体の概要や取組を周知する効果がある。 ③今後の視点 ・障害者団体や教育機関、子ども向けへの情報発信を強化し、震災を知らない世代への防災教育を通じた交流を図る。 ・障害（がい）当事者への参加促進のため、相談支援事業所から声掛けが必要である。 ・まちづくり協議会や地域イベントの主催者にも当事者が参加しやすい環境の整備、参加の呼びかけ等の協力を依頼する必要がある。 ・日頃から地域との関係性を構築し、災害時や非常時に備えたつながりを意識していくことが重要。 (3) 今後の対応 次回までに、事務局で意見・課題を整理する。 2. 往診・訪問診療について (1) 往診・訪問診療に関するアンケートについて ・11月17日に医師会事務局を訪問し、事務局長へ報告を行った。 ・医療機関の情報開示については、医師会会長あてに書面で依頼する必要がある。⇒理事会に諮る必要があるため、会長あての依頼文を作成する。
--	---

	(2)往診・訪問診療パンフレットについて ・誰を対象にしたパンフレットなのか、対象者を明確にする必要がある。 ・子どものかかりつけ医が見つからず困っている保護者からの相談がある。親が見て「かかりつけ医を持つことの大切さ」を感じられる内容がよい。 ・相談員が説明時に使用でき、「字が少なく、当事者にやさしい」パンフレットが望ましい。 ・障碍（がい）者は遠方の医療機関に通院しているケースが多いため、かかりつけ医を持つことで、専門医療機関との連携や紹介が可能になる点を分かりやすく示したい。 ・想定される質問に対し、どのような対応が可能かを明記することで、相談員にとっても活用しやすくなる。 ・医療機関へ配布することを想定する場合、個別の医療機関ではなく、公的な参照情報を用いる方が望ましい。 ・事務局会議や特定相談支援事業所連絡会において、相談員が中心となって最終的に作り上げてはどうか。 (3)今後の視点 ・事務局会議や特定相談支援事業所連絡会でパンフレットに関する意見集約について事務局で検討する。 ・次回までに、事務局でパンフレット案を修正する。
--	--

第 5 回くらし部会 会議議事録	
日時・場所	令和 8 年 2 月 6 日（金）14:00～15:30 会議室 A
出欠者	出席者 11 名
議題	内容（決定事項等について）
1. 告知事項	・2 月 8 日 「市民と市長の対話の広場」 売布に建設予定の福祉拠点について話合われる。 ・2 月 11 日 「育成会祭り」 ・2 月 15 日 宝塚市の総合防災訓練に、手をつなぐ育成会 4 名、家族会 1 名、ろうあ協会 4 名で参加予定 ・2 月 24 日 兵家連主催の講演会 「精神医療における強制入院との決別」
2. 協議事項	1. 障碍（がい）理解の啓発に関して (1) 12 月以降の地域イベントの感想

	【総合福祉センター避難所開設訓練】 ・総合福祉センターの避難訓練に当事者が初めて参加し、受付の声の聞き取りにくさや事前説明の少なさ、待ち時間の長さ等、流れの分かりにくさが気になった。 ・避難テントやダンボールベッドを体験できたことは安心感につながり、実際の避難生活を考える機会となった。 ・アルミマットの冷えや床ずれの心配、備品の使い方や設備の説明不足など、当事者の立場だからこそ気づく視点も多くあった。 ・相談員の声かけが安心につながった。 ・当事者が参加する意義が大きく、来年度は企画段階から当事者へ声かけを行うのはどうか。 【校区ネットワーク会議】 ・校区ネットワーク会議に参加し、当事者がイベントへ参加することを通じて、少しずつつながりが広がっていることが分かった。 相談員からの個別の声かけが、参加のきっかけになりやすいと感じた。 【啓発方法】 ・まち協などへの直接の声かけをしたり、継続的に情報共有できる仕組みづくりが必要。 ・障害（がい）者スポーツのイベントの参加人数が少なため、パンフレットを作成し計画相談向けに配布しようと考えている。 ・計画相談が、地域のネットワーク会議に参加する意味は大きい。 ・相談員が集まる会議などで基幹から情報提供は可能。 ・合理的配慮の対応事例集などがあれば検討しやすい。 ・部会の中で事例を用いた意見交換をして障害（がい）理解を深めたい。 (2) 今後の方向性 ・障害（がい）理解については、根底にある課題として継続的に考えていくべきテーマである。今後は議題として固定化するのではなく、告知事項の中で地域イベント等の情報交換を行う形としてはどうか。 ・障害（がい）理解の啓発に関しては、議題としては一旦区切りをつけ、随時情報共有を行っていく形とする。 2. 往診・訪問診療について (1) 委員からの意見 ・当事者の医療ニーズを把握することは大切。精神障害（がい）のある引きこもり状態の方の中には、医療ニーズはかなり多いと感じた。 ・医療ニーズのアンケートの資料を提出してもらうのはどうか。当事者に来て話
--	--

	をしてもらい医療ニーズを把握する等の方法もよいのではないか。 ・コロナ禍を通して、かかりつけ医の必要性を実感した。内科的なクリニックがかかりつけ医になるとの話もあった、精神科の診断書や発達検査に対応できる医療機関が限られている現状もあり、その両方のニーズがあると思う。 ・アンケートを実施し、集計結果を医師会に返してからのスピード感がない。時間がかかると、医療機関の状況が変わってしまうため、アンケートの取り扱いについては早急に次の手を打つべきとの意見が挙がった。 (2) 今後の方向性 ・アンケート結果は、医師会事務局に報告した。見えてきた課題から、かかりつけ医の重要性についてパンフレットを作成していくこととなった。 3. 部会の今後の方向性 ・医療・福祉の関係者が多く参加していることから、くらしの中で感じていることや課題と思われることを、各々の立場から出し合える場としてはどうか。 ・けんり部会では、架空事例を用いた事例検討を通して意思決定支援を深め、成果物を出していく活動をしている。 ・今後、個別で困りごとがあれば、事前に事務局に相談いただき、事務局で進行について検討していく。
--	---

【今後について】

●往診・訪問診療について

・アンケート結果は、医師会事務局に報告済み。そこから見えてきた課題から、かかりつけ医の重要性についてパンフレットを作成していくこととなった。

●障害（がい）理解の啓発について

・障害（がい）理解については、根底にある課題として継続的に考えていくべきテーマであり、今後は議題として固定化するのではなく、告知事項の中で地域イベント等の情報交換を行う形としてはどうかという意見があった。そのため、障害（がい）理解の啓発については、議題としては一旦区切りをつけ、今後は随時情報共有を行っていく形とする。

● し ごと 部 会 活 動 結 果 報 告

第1回 しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 5 月 15 日(木) 14:30～16:00 会議室 A および Zoom
出欠者	出席者:15 名 欠席者:2 名
議題	内容(決定事項等について)
1.しごと部会三役の選任式	〈前部会長より、三役についての説明〉 ・今年度の三役選任を行う。
2.自己紹介	・委員・事務局より自己紹介を行う。
3.自立支援協議会についてと全体会の報告について	〈しごと部会事務局基幹相談支援センターより〉 ・自立支援協議会についての説明。(資料参照) ・自立支援協議会全体会の報告。 ・組織図の説明
4. 共同受注窓口グッドジョブからの報告について	〈グッドジョブより〉 ・グッドジョブの成立ちについて説明。 ・会員 27 事業所で現在 18 事業所契約更新。 ・工賃の事だけでなく安心・安全な支援体制づくりを目指す。
5.「事業所合同説明会」の開催について	〈しごと部会の取組みについて〉 ・しごと部会として就労の促進・雇用促進・工賃水準の向上・合理的配慮について合同説明会や雇用啓発セミナー等を実施してきた。協議内容として社会貢献視点ではない雇用の在り方、戦力になるための雇用の在り方について協議をしてきた。今後は学歴期の就労・障碍(がい)を持つ方の高齢化の就労についても協議をしていく。自立支援協議会が根拠ある地域課題の抽出が出来るような仕組みを作ることが出来るようにしごと部会から提言し、自立支援協議会全体会の活性化を目指す協議していく。 ・今年度も合同説明会を実施するにあたり、事前説明会を行い参加した福祉事業所の方に自立支援協議会の理解してもらうために説明を行った。 ・事前説明会 5 月 12 日実施。15 事業所 16 名の参加。 ・自分事として考えていける仕組み作り。(研修・勉強会・説明の場等) ・合同説明会はこれまでしごと部会が中心に作業部会を運営していたが、今後は市内の福祉事業所が中心に運営してもらい、しごと部会がバックアップしながら進めていきたい。 〈合同説明会について〉 ・8 月 2 日(土曜日) 13:00～16:00 アピオホール。 ・当日イベント終了後、片づけの前に振り返り。

	・コンシェルジュについて、前年度プレで実施したが公平性の担保が難しかった。今回は、受付にてエリアマップで案内。 ・冊子の作成。 ・チラシについて、6月中旬に出来上がる予定。
6. 年間スケジュールについて	〈年間スケジュールについて〉 ・8月2日合同説明会 ・作業部会の運営につて8月若しくは9月で設置・移行していく。 ・しごと部会の定例開催日時(第3木曜日)の変更について、日程調整を行う。(7月より変更)
7. お題について	〈お題について〉 ・今年度も「はたらく」について自身の振り返りも含めて実施。
8. その他	〈委員より〉 ・昨年度は、2・3年生縦割りて10名程の方に車椅子のメンテナンスを実習した。今年度も学校に宝塚育成事業所にきてもらい生徒の学びの機会をと検討している。今年度は、2・3年生縦割りだけでなく1類型2類型の分け方もあり職業事業の中でグルーピングをして学びの場の提供を実施できればと考えている。重度の方は難しいではなく2類型の生徒にも提供していく。これが一つの学びの場となって10月末に現場実習があるので校内で働く学びになれば校内実習に繋がられる。就労継続支援B型事業所がしている軽作業などを校内で仕事提供してもらえ体制が作れたらと考えている。 ・もともと自立支援協議会で出ている学校内で実施できないかがスタート地点で県立の学校と宝塚市の自立支援協議会だけの難しさがあった。育成事業所に来るための授業ではなく、仕事の体験を実践している。昨年は1類型のしっかりとしている方が中心の授業だった。特例子会社対象だと思われる方も親の交通機関が心配だから就労継続支援B型事業所でと言う意向がある。地域で重度の方もしっかりと働ける、いつか学校内で様々な体験や経験が出来るような機会が持てる体制が必要だと思う。 〈新しい委員からの感想〉 ・専門用語があったが地域で多様なことを実践していると感じた。 ・色々な課題がありこれから考えていくことがよぎっている。支援学校の方が体験してこれまでにあれば選択する機会となっていたのか。これから自分の事は自分で決める機会が増えればと思う。 ・難しい言葉が多かったのですが熱心な活動は確認できました。 ・自分の事業所として取り組めることがあれば頑張りたい。

第 2 回 しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 7 月 3 日(木)14:30~16:00 会議室 A および Zoom
出欠者	出席者 17 名 欠席者 1 名 傍聴者 2 名
議題	内容(決定事項等について)
1. 共同受注窓口グッドジョブからの報告について	〈グッドジョブより〉 ・令和 7 年度、27 事業所で前年度同額の補助金申請中。 ・選挙関係の仕事が増加傾向、今年度も 105%を目指す。 ・今後の流れとして、救護施設なくさ厚生院と連携。
2. 「事業所合同説明会」の開催について	〈グッドジョブより合同説明会について〉 ・作業部会に 4 事業所が参加。 ・8 月 2 日(土曜日)13:00~16:00 アピアホール。 ・チラシ出来上がり学校・事業所等に配布。(サポート校にも配布) ・冊子作成中で 7 月中旬宝塚市ホームページにアップ予定。 ・合同説明会終了後に参加された事業所で振返りを行う。振返りの方法については、グループワークで行う予定。
3. お題について	〈下記事前課題について各委員の考えを共有〉 ① あなたにとって「はたらく」とはなにか。 ・3 回目でも「はたらく」は変わらないと思っている。生活を維持するもの、自分の居場所と考えている。何年目でも変わらない。 ・社会の中で誰かの役に立てる。以前の仕事は、就労継続支援 B 型・A 型事業所など福祉就労の支援をしていたが、現在は一般就労の支援をしている。福祉的な就労を含めて一般就労でも仕事につき家族以外の方からありがたいと言われて自信を取り戻していくのを見ていると誰かの役に立てるのは良いなと思う。 ・4 年目になる。今回も考えてあまり変わらないかと思いつつ、誰かのためになっている。私はヘルパーをしているが、息子が知的障碍(が)いで私も誰かのために役に立ちたいと思って仕事をしている。日々、新しい出会いがあり学びになっている。学んだことを活かした働き方が出来たらと思っている。 ・生活に不可欠なもの。100 人いれば 100 通りの考えがあると思う。特別支援学校などで繋がりをもつと「はたらく」ためのきっかけを聞くことがある。答えを求めているわけではなく先生・家族と答えを出すのが正解と伝えている。 ・経営者と話をする機会が多い。経営者になると仕事と生活の境目がない方が多い。ON・OFF が切り替わる育児・趣味と仕事の切り替えが大事だと思う。 ・社会の中で与えられた役割を果たすことだと思う。家では家事の役割、仕事上での役割など人生を形成する上で必要な事。IL センターに車椅子の方が多く、動画配信にクイズがあり「電動車椅子は飲酒運転しても良いかダメか」

	等の配信を仕事にしているのが印象的だった。「はたらく」を固定概念にとらわれず考え方が広がった。 ・若い時は当たり前「はたらく」＝「お金」が、年を重ねるにつれお金を稼ぐことから考えが変わってきた。高齢の父親が毎日「なんかすることないか」と聞く。自分の施設は、重度の方が多いが何か役に立てることがあるのか。自分は役に立つことがないのか、日々、役割を持って生活する事が「はたらく」なのではないかと思う。 ・「はたらく」とは、生活費を稼ぐことで生活には大事だが、生活費を稼ぐために働いていると日常がすごく味気なくつまらないものになってしまう。「はたらく」事を通じて社会貢献や新たな知識を得て成長につながる事だと思う。 ・任される仕事があるからこそ働き続ける事ができ必要とされているから頑張る。昨年は、貢献という言葉を使って「はたらく」を表現したが、「はたらく」の伝え方が変わってきたと思う。はたらく人が少しでも楽になるように気にかける事、例えば家の中で空き缶をつぶす・ペットボトルを分別するはリサイクル業者の手間が省けて貢献できている。進路指導をする中で貢献と合わせて就労継続支援 B 型事業所で安心してはたらくだけでなく、人のためになれることも大事であること。どうしたら社会貢献できるのか職員からも伝えてほしいと言っている。「はたらく」という声掛けが変わってきているように感じている。 ・2 回目ではほとんど変わっていない。自身の成長につながる事。リフレッシュする事。昨年と変わらないが、人と人のつながりが大事。ワークライフバランスを意識している。 ・「はたらく」とは 4 回目だと思う。昨年と大きく変化はない。「はたらく」とは何か、共有する社会・支援する社会などアクションを起こす事。自分中心のエゴではなく偽善的な考えではなく人は 1 人で生きていけない。コミット出来るはたらく状況があればそれは社会システムが足りていないので課題を発見する事になる。そこから変えていくことがアクションにつながる。 ・「はたらく」変化はないが向き合い方が違ってきている。生きていく上で必要なことで自分にとって欠かせない物・夢中になれる物。ワークライフバランスは境目がない状況。 ・「はたらく」立場の中で変わっていく。誰かの未来に関わる。一人では「はたらく」ことは出来ない。チームで「はたらく」その中で影響を受ける。一人で仕事をしている人も人とのつながりがあり責任がある。「はたらく」は大事に捉えていきたい。 ・若い時は、どれだけ長く働くかを意識していた。長く働いても楽しく面白いと感じていた。子育ても含めてワークライフバランスは大事。経営職になると考えざるを負えない、多様な方の働き方をチーム力として業務で考えていく。 ② しごと部会後期の取組みとして自立支援協議会の理解・促進について
--	---

	・ボトムアップの形でそれぞれの部会の取り組みに関わる仕掛けを用意したい。しごと部会として、合同説明会やセミナーなどをして関係者に参加してもらっていたが、実際に見て共感してもらうプロセスを通じて他の部会にも同じように実践してもらうのはどうか。 ・委託相談で関わっている部会はわかっているが、その他の部会についてはわからないので傍聴することで知る機会を作る。 ・オブザーバーとしての参加や傍聴されると緊張感をもって会に参加できる。 ・開かれた会議・見える会議は良かった。 ・サービス管理責任者の課題で出ていたが最初の知識で何回も聞くことでつながっていった。自分で調べることも大事だと思う。 ・セミナーを参加型にすることで、話し合って自分事として、積極的に考えてもらえるのではないかな。 ・企業にアンケートを行い結果については、フィードバックする事で知ってもらう機会になる。
4.その他	〈委員より〉 ・年度末に報告したが宝塚育成事業所の方に来てもらいメンテナンスの授業をした。昨年度は、1 類型（比較的軽度、B1・B2）口頭指示やマニュアルでクリアできる方。今年度は、2 類型（1 対 1 で明確に指示が必要）の方がチャレンジした。福祉用具のメンテナンス、ベッドの消毒作業を行った。事業所で働いている方が来て校内にいながら事業所の雰囲気の中で体験できたことが良かった。これを学校に定着させ様々な繋がりを活かしていく必要がある。 ・学校で合同説明会が出来ないかと話し合いをしたが色々な事情で出来なかった。その中でしごと部会からの繋がりで新たな取り組みとして行っている。学校との事前打合せを何度も行い実施している。 ・ハローワーク雇用情報等について（別紙参照）

第 3 回 しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 9 月 12 日(木) 14:30～16:00 会議室 A および Zoom
出欠者	出席者 14 名 欠席者 5 名
議題	内容(決定事項等について)
1. 共同受注窓 ログッドジョブ からの報告につ いて	〈グッドジョブ理事長より〉 ・前期実績報告については、次回会議にて報告。 ・新しく 1 事業所加入あり、29 事業所になった。 ・今年度、年 3 回の勉強会を予定している。 8 月 22 日(金)勉強会、11 事業所 15 名が参加。 10 月 6 日(月)ソリオホールにて「就労選択支援の解釈と運用について」

	17:30～19:30 2部制で行う予。支援者は参加可能。案内を行う。
2.「事業所合同説明会」の報告・振り返りについて	〈合同説明会の報告・振り返り〉 ・8月2日(土)13:00～16:00 アピアホールで実施。 ・来場者数:110名。来場者アンケートの結果:回収率は昨年度より低かったが、説明会で聞きたいことが聞けた、冊子の内容が良かった、各ブースが工夫されて分かりやすかったなど満足度は高かった。 ・説明会終了後に参加事業所で1時間振り返り、事業所にとって良かった点・改善点、全体として評価できる点・改善点でグループワークをした。(5グループ) ・今後の開催に向けて準備段階から積極的に関わってもらえるよう年明けから作業部会メンバーを招集予定。 〈参加された委員からの意見〉 ・事業所によって差異があるのが気になった。事業所に対するアプローチがあっても良いのではと思った。 ・、中央公民館で開催した時よりも行きやすい。早めにチラシを配布したので良かった。毎年開催できるのは良かった。伊丹は昨年・今年となかったのが伊丹から通っている生徒もいるので伊丹ではないのかと聞かれた。伊丹に同じような事業所はないかと聞かれることがあり進路担当としては良かった。 ・親の参加が多く、本人の参加は少ない印象。サービスの特色を出していけるようにしていきたい。知りたいと思うことを知ってもらえたのではないかな。 〈振り返りの意見〉 ・事業所によって偏りが目立った。 ・もう少し準備してきたらよかった。 ・知識不足で説明が出来ない事があった。 ・事業所としてしっかり発信できるものを考えられるようにしないといけない。 ・他の事業所を知っている事で、説明の幅が広がるので対象者が有意義になるように横のつながりが持てるようになると良いと思う。 ・当日、準備に慣れているので開場がスムーズに行われていた。 ・計画相談員の参加が少なかった。 ・今回は合同説明会だったが、いずれは、障碍(がい)者雇用を考えている人や実習先を見つけたいニーズもあるので今後検討してはどうか。
3.協議事項について	〈しごと部会後期の取組みについて委員からの意見〉 ・グッドジョブが行う「就労選択支援について」の勉強会は、宝塚市の中で進めていく必要がある。知識を共有し考える機会や学べる機会をつくる。 ・就労選択支援について、労働局として文章が具体的に降りてきていない状況。具体的なことが分かれば研修が出来るのではないかな。 ・精神、発達障碍(がい)の方のしごとの養成講座や事業所向けて雇う場合

	の注意事項や寄り添い方の講座を実施予定。初めての障碍(がい)雇用に向けてであれば配慮について企業向けの研修はどうか。 ・合同説明会は学生が中心だと思うが、ステップアップするための企業や事業所を対象の説明会はどうか。(次につながる支援として) ・理解を深められる研修。 ・実際に受け入れされている企業の成功体験を聞く。 ・障碍(がい)雇用されている最先端の取組みの事例を知りたい。ここなら自分も働けるかもしれない気づきになるような研修。 ・10月から就労選択支援は、どこが中心に行うのか。始まるにあたり阪神北ネットワークの勉強会に参加している。行政から就労選択支援を周知すると学校は動きやすい。学校は学校のアセスメントが必要でアセスメントの力を高める必要がある。連携は必要だと思うが宝塚市の方向性を教えてほしい。 ・他市と足並みを揃えることは難しいと思うが情報共有はしていきたい。違いを教えてもらい行政間で共有していきたい。 ・差別解消法の研修。「はたらく」で意思決定支援の講演、意見交換。「働くまで」と「働いてから」の意見も含めて共有出来たらどうか。(「はたらく」を深めるセミナー) ・当事者の声で働いて苦労した、どんな場所や当事者の声を聞かせてほしい。 ・明石市で8月末に就労選択支援フォーラムを実施し150名定員の所200名以上の申し込みがあった。降りてきている解釈がずれないように委託相談・計画相談・事業所向に研修は必要。 ・就労継続支援B型事業所からのステップアップするため、情報提供を行い選択してもらえるような支援が出来る気づきのきっかけとなる研修。 ・市内の事業所が増えている状況、正しい情報を伝えていくことが大事。 ・ガイドライン、法制を正しく理解する事でボトムアップを図る。 ・親に向けての啓発も必要ではないか。 ・年4回しっかりと研修を行う。 〈次回の協議事項〉 ・来年度実施していくための準備(時期・回数・内容等)
4.その他	〈委員より〉・障害者合同就職面接会の案内(別紙参照) ・消毒の実習授業を9月、10月に行う。

第4回しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和7年11月6日(木)14:30~16:00 中央公民館 203.204 および Zoom
出欠者	出席者 14 名 欠席者 4 名 傍聴 4 名
議題	内容(決定事項等について)

1. 定例会・全体会の報告について	〈部会長より報告〉 ・10月10日定例会 ・11月4日全体会 ・内容として各部会・質疑応答・福祉基金の説明・人材確保協議・日中支援型GHの報告。会長より立場や役職などで質問を振る場面がありすべての委員が発言できるように会議がすすめられていた。
2. お題について	〈部会長よりコメント返しについて〉 ・はたらくについて各委員からコメントを記入してメールで送るので、入力が出来たら事務局に返信をお願いする。
3. 共同受注窓ログッドジョブからの報告について	〈グッドジョブ理事長より〉 ・全体会で委員より質問があり、グッドジョブは補助金をもらい就労継続支援B型事業所(以下B型)・生活介護・地域活動支援センターが対象で就労継続支援A型事業所(以下A型)に斡旋できない事の説明を行った。 ・R6年法改正で、大阪の一部A型が報酬に頼った経営になり閉鎖した。グッドジョブの役割として、最低賃金がベースになるので機会をみて検討していきたい。 ・今後も研修を実施していく。 ・10月6日就労選択支援の勉強会を実施。又村あおい先生を講師に95名の参加があった。参加した方へアンケートを実施し20名の返信があった。アンケートに返信があった事業所を対象に「アセスメント」「意思決定支援」の研修を行う予定にしている。 ・地域を作っていく仲間を増やす仕組みづくりをしていきたい。 〈就労選択支援勉強会に参加された方の感想〉 ・就労選択支援の講演会に参加して、10月から始まることでの概要や事業所がどのような所なのか要件が何かを知ることが出来た。 ・参加した職員より、制度の概要を把握する事ができ、すごく勉強になったと聞いている。 ・8月に明石で実施された研修に参加したが難しく、講師の話がわかりやすく内容が理解できた。就労選択が開示されている事を受けて役割が明確になったのが良かった。 ・地域の方が参加できるものに声をかけてもらい参加した。就労選択は福祉サービスでありながら学校もしっかりと関わっていかなければならないと考えている。通行手形という表現だったこれまでのアセスメントが、これからは材料を集めて整えていくものという認識が必要で、学校の職員も意識を高く持っていけたらと思う。 ・個人的には勉強不足の所があるが、大きく進んだ後、未来の状況としてB型の働く場所があるのか、一般の働く場所が増えているのか、5年・10年後にどうなっているのかイメージを教えてください。 ⇒2022年就労フォーラムに登壇したが、A型・B型はいずれ無くなるものだと意

	識を持たないといけないと話をした。障害制度が何のためにあるのか、本人の力をどのようにアウトプットしていくのが根底だったのが、営利法人・社会福祉法人もいつの間にか手帳を持っている人をどう取り込むかの考えになっている。思い描く未来としては、A 型のような制度があったなを目指すべき。今できる事をしっかりやっていくことが大事。2017 年の議論が 2024 年の改正で同じ内容が議論されている。5 年をどう取り組んでいくのかで大きく変わる。研修を受ける事で意識が変わるのであれば向こう 5 年の景色が変わるかもしれない。 〈部会長より就労選択支援の事業所について〉 ・宝塚市では喜作という事業所が「くる」という就労選択支援の事業所になる。しごと部会に挨拶にと連絡をもらったが、営業活動のような場になるのは違うので、今回は、一旦お断りをしている。これから、就労選択支援について議題で取り上げる際には部会から声をかけて説明の機会になれば良いと思う。委員の中で聞いてみたいことがあれば 1 月に説明の機会を持つことも検討したい。 〈就労選択支援について委員からの意見〉 ・就労選択支援が、初めて B 型を利用するためのというわけではなく B 型を利用している方が相談員からの紹介で選択する機会があるので、活用次第で市内の障碍（がい）当事者が働く機会が増えるのではないかな。どのように就労選択支援を進めていくのかを聞いてみたい。一般就労をしていたが病気でしんどくなってきた時に厳しいと思うタイミングで福祉的就労なら無理なく働けるのかりワークでの活用もできるか、有用な例があるのかをアセスメントをしてどこで働くのが一番発揮できるのか共通のツールで共通の言葉で意思確認したい。 ・当事者の親として、就労選択はその子の能力を見極めてくれる、今の段階でアセスメントしてくれるところがあるのかどうか。 ・学校は原則だが、それ以外の方は、それに限らないので使い方はとても可能性があり選択肢もあるはず。リワークの人、生活介護の人等の多種多様な方に対するアセスメントをしっかりとれるのか、メニュー、機関はどうするのか、協力機関をどのように考えていくのか。宝塚でそのように試行錯誤していくのか。 ・ハローワークとの連携、就労選択支援、相談支援がどのようにすり合わせていけるのか。 ・宝塚市の現状でしごと部会がここまで進んでいて横のつながりをどの程度作っていけるのが大事で、事業所が頑張るだけでなく、いかにつくりあげていくかもポイントになる。 ・くるは学校に挨拶に来た。宝塚に根差した考え方をしていると感じた。福祉サービスなので 1 つの事業所が頑張るのではなく、行政や相談の体系を整える事が大事。就労選択支援は、同時性がありすぎると評価として今後活用していくことが出来るアセスメントになるのかどうか、一定の基準があった方がいい。学校への情報は行政からおろしてほしい。
--	---

	・今までの就 B 型へのアセスメントはダメだと伝えている。就労選択支援は、誰しもが利用できる、自分たちの力を見てもらえる。サービス種別が優先されるものではなく、マッチングしていくことになる。 ・意志決定支援が大事で本人がどうしたいのかを話していく必要がある。 ・商工会議所は、任意加盟で障害福祉サービス主体の事業所は加盟していないが入ることはできる。どの業界も人手不足で悩んでいる。建設関係は、外国人労働者をピックアップしている。障害雇用については、進んでいるとは思えない。大手は、特例子会社対応で中小はあまりない。都市圏は別だと思うが、宝塚市ではまだまだ労働者を確保していないといけない中で、いろいろな人たちを労働者としてゆっくり進んでいくのだろうと思う。 ・くくるとしてどういうアプローチ・仕掛けをするのか聞いてみたい。 ・ハローワークに通知がきた内容について、具体的には決まっていないが、令和 7 年 10 月から B 型の選択支援が原則となるため令和 9 年 3 月までに本格的に関与し選択支援の実施の結果、一般就労の判断をされた場合マッチングする可能性がある場合はハローワークが参加して対応しなさいと言う内容だった。また改めて提示できればと思う。大阪での雇用で B 型の取り扱いはないが、A 型の希望があると具体的に支援機関がいるのかアセスメントはしているのかと聞かれた事がある。徐々に動いていると感じた。就労選択支援の事業所同士の連携があるのか、宝塚市は 1 箇所、他市との連絡・連携はあるのか聞いてみたい。ブラッシュアップ出来るような仕組みになるのかどうか。 ・健康福祉事務所としては、就労系の方とのつながりが希薄なので分からないところがあるが、導入が進んだ後、障碍(がい)のある方が自分に合った所で就労できるようになったのか、離職率が減ったのかを実施した結果を聞いてみたい。シンポジウムの担当でグリコの方を招いて障害者雇用についてご登壇頂く予定にしている。
4.協議事項	〈部会長より後期の取組みについて〉 今後、研修を行うために作業部会を立ち上げて実行部隊としてすすめていきたい。作業部会のメンバーについては、三役で考えていく。インプットした後でアウトプットできるような仕組みを作っていく。ファシリテーターも含めてメンバーの個性を考えていく。自立支援協議会を知ってもらう事は継続して、事業所の底上げ・障碍(がい)の理解の啓発・地域を作っていく会にしたい。

第 5 回しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和 8 年 1 月 8 日(木) 14:30~16:00 会議室 A および Zoom

出欠者	出席者 14 名 欠席者 4 名 傍聴 4 名
	次回予定 令和 8 年(2026 年)3 月 5 日(木) 14:30~16:00 会議室 B および Zoom
議題	内容(決定事項等について)
1.就労選択支援について	〈就労選択支援くくるより〉 ① 下記の事前質問を含む説明(別紙資料あり) ・就労選択支援の多種多様な取り扱いについて ・アセスメントの期間の設定について ・実習先(協力関係)の進捗状況について ・相談支援事業所との連携体制の構築状況について ・他の就労選択支援事業所との連携について ② 事例の紹介(2 事例) ③ 委員からの意見・感想 ・福祉サービスを利用している人、していない人が平等に知ることが出来るようになるにはどうすればいいか。 ・情報提供を目的として行政から説明する事はどうか。 ・心配・課題として初めて細かくアセスメントを受ける事で心理的な負担はどうか。マイナスな部分についてのフォローが必要ではないか。 ・高校 3 年生で評価を受ける意味が分からないことで混乱の可能性があるもので、1・2 年生で説明・アセスメントの体験で内容を知ることが出来るのではないか。 ・期待しており、必要なサービスだと感じている。アセスメントも変わっていくと思う。
2.共同受注窓口グッドジョブからの報告について	〈グッドジョブ理事長より〉 ・野外関係の作業が埋まりにくく、工賃を高めに設定して参加を促すようにしていく。 ・グッドジョブの成り立ちや、今後の在り方などをより詳しく知ってもらうために共同受注の連絡会で共有していく。 ・定例会の時間を使って就労フォーラムの情報を共有予定。
3.協議事項	〈部会長より〉 ・合同説明会について、作業部会を 1~2 月に開催予定。今までしごと部会が中心に実施してきた説明会を地域の事業所が中心に開催できるようにする。進捗状況についてはしごと部会にて報告を行う。
4. その他	〈グッドジョブ理事長より〉 ・研修について「意思決定支援」をテーマにけんり部会長に依頼をしている。幅広く参加してもらうため案内予定。

第 6 回しごと部会 会議議事録	
日時・場所	令和 8 年 3 月 5 日 (木) 14:30~16:00 会議室 A および Zoom
出欠者	出席者 17 名 欠席者 1 名
議題	内容 (決定事項等について)
1. 定例会について	・事務局より自立支援協議会定例の会報告 ・部会長より定例会でのしごと部会の報告
2. 共同受注窓ログッドジョブからの報告について	〈グッドジョブ理事長より〉 ・前年度 1300 万、今年度 2 月末の時点で 1020 万、3 月末には前年度を上回る予定。 ・グッドジョブ 8 年目になるが事業所の担当者も替わり内容が伝わっていないこともあり、4~5 月が契約更新時期になるので会員を対象に説明会を行う予定。
3. 作業部会について	〈部会長より〉 ・2 月 25 日作業部会を三役・事務局で開催。 ・改めて合同説明会の基本的考え方について参加する事業所に説明が必要。 ・令和 8 年 3 月 24 日 (火) 13:30~14:30 市役所で事前説明会を開催し作業部会の委員選出を行う。 ・事業所の方中心に開催予定。 ・合同事業所説明会の日程を 8 月 1 日か 8 日のどちらかでアピアホール開催予定で調整中。

4. 就労選択支援のまとめについて	〈部会長より就労選択支援のまとめ〉 ・上半期に又村あおい氏、下半期にくるから話を聞いた。現時点で対象者がどういう状態かを判断して、選択が出来るように自分たちが何を提供しているのかを言語化していくことが大事。本人の希望だけではなく進路指導の先生と一緒に宝塚全体で連携していく必要がある。くるに来てもらい基本的な内容を説明してもらった。 〈各委員より感想等を含めた意見交換〉 ・今の力を知ることが大事で利用する時に保護者に知ってもらう必要がある。学校の評価の出し方とは違い専門的にしている方の評価は安心すると思う。ぼやけていた進路が明確になりミスマッチを防ぐことが出来る。1・2 年で力を図りたい。3 年まで何もなかった時のアセスメントと積極的に就労継続支援 B 型に行かせたい家庭とでアセスメントの為に受ける就労選択支援となると 1・2 年と 3 年生で意味合いが違って来る。日程調整についてどこまで連携していくのかフローチャートのようなものがあれば学校も福祉サービス側も安心して学校が入りすぎない仕組みが上手くいくのではないかな。 ・1 人 4 月にくるを利用した方がいるが、客観的に評価をもらえるのが有効だと思う。学校があまり入らずに計画相談中心に調整をして、学校が必要な手続きを行ったので負担がなかった。 ・4 月から杉の子も始めると聞いている。Be ゆうで実施した就労支援ネットワークの話を聞いてみたい。 ⇒現在改装中で 4 月から実施。就労支援ネットワーク会議を開催し 45 名参加。就労選択の実施内容について説明を行った。 ・今後の就労支援ネットワーク会議の開催についてどうするのか。 ⇒現在検討している。事業所がどう運営するか、人材育成等の質問・意見があった。来年度は、福祉的就労から一般就労への切口のようなことを実施したいと考えている。 ・今年度は、講演会や話を聞く機会があり良かった。市内の事業所向けに安定的に継続できる講演会をしていきたい。アップデートしていかないといけない。来年 6 月から処遇改善加算が付くので計画相談の重要性・出来る事が増える事で質の向上が問われる。学校への福祉サービスの説明も特定から行う事も提案し専門部会の連携が必要。 ・明石で行われた就労移行支援の研修に参加したが難しかった。また、何が向いているのかやお金を稼ぎたいとの相談がある。仕事を探している時に根拠となる評価制度が出来たのは心強い。家族と連絡が取りにくい方で学校の協力がありがたかった。 ・高校 3 年生を中心にアセスメントしていた。全く福祉サービスを利用していない保護者への説明が難しかった。計画担当者につなげるのがとても難しかった。
-------------------	---

	相談支援が付いていないのでタイムリーに動いてもらえない。1・2年生の内に評価となるとサービスにつながっていないといけない。調整に対して学校がどこまで線引きが出来るのか。 ・保護者へ障害福祉サービスの理解促進は勧めていくべき。 ・分かりやすいリストが必要ではないか。1枚もののリーフレットで誰に対してなのか、使うための流れ等のポイントを考えて作成してはどうか。 ・年に1回ネットワーク会議が開催されるのであればリーフレット作成も検討が出来るのではないか。 ・3年生の5月に各行政の冊子を配るが、家族に分かりにくい物になっている。ざっくりでもいいので分かりやすいものがあれば良いと思う。 ・合同説明会に中等部の親が多く来場した、興味関心が低年齢化してきている。きちんと説明する機会を持つことが必要だと感じている。 ・最初のスタートが違うとその子の将来が違ってくる。小さい時から親が考えていかないといけない。 ・ハローワークでは現在はない。令和9年度就労継続支援A型が対象になるので、就労選択支援について積極的に参加するように言われている。
5. 今年度のまとめについて	〈部会長より〉 ・人材の確保、育成等やり方をどうしていくかを現場は考えている。自立支援協議会がなぜ必要なのか、なぜすすめているのか、どのようなあり方をしていくのかを伝えられるようにしていきたい。地域で考えられるように今後も一緒に取り組んでいきたい。
6. その他	・各委員から情報提供

【今後について】

- ・お題に対するコメントを通じて、委員同士の考え・価値観などの理解を深める。
- ・事業所合同説明会、研修の準備を進めていく。
- ・各部会と共通する協議事項について整理し一緒に検討できるように進めていく。

● こ ど も 部 会 活 動 結 果 報 告

第 1 回 こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 6 月 2 日(月)13:30~15:00 会議室B及び ZOOM
出欠者	出席者:12 名 欠席者:5 名
議題	内容(決定事項等について)
1.自己紹介	各委員より自己紹介を行う。(所属・氏名・仕事内容)
2.自立支援協議会について	・基幹相談より組織図に沿って説明。 ・本年度より障碍(がい)福祉基金活用検討会が発足。
3.こども部会について	【昨年度の報告】 ・たからっこノートのリニューアルに向けた取組み 保護者からのアンケートをもとに改訂していく。 ・たからっこお助けブックの配布 案内ポスターを作成した。関係機関で掲示予定。 【部会長・副部会長の承認について】 部会長・副部会長の選任を行う。
4.アイスブレイクとグループワーク	テーマ 1 〈週間休みがあったら何をしたいか。〉 テーマ 2 〈どんな部会にしたいか。〉 ・教育・福祉・行政での情報交換がしやすい場 ・顔の見える関係性づくり ・普段の困りごとが相談できる テーマ 3〈グランドルールの設定〉 ・情報に関する資料は分かりやすく簡潔に作成する。 分野が異なると、資料の内容が難しいことがあるため。 ・専門用語の使用を控える。 誰もが意見交換に参加できるようにするため。
5.たからっこノートアンケートの承認及び配布方法について	【アンケート内容の修正】 ・⑧選択肢“持っていない”→対象者への配布ができていないこともあるため、“貰っていない”に変更する。 ・⑧“貰っていない”と回答した場合、アンケートが終了してしまう。 →⑯から⑰を回答して、意見をもらう。 ・現在のたからっこノートは、成績・学習面の情報が載っていない。 →⑰に成績・学習面での記載を尋ねる項目を追加する。

	・得意なことや不得意なことが分かれば、支援に活かすことができるのでは。ないか→⑰に得意・不得意についての記載を尋ねる項目を追加する。 ・②“１つだけマークしてください” →複数の機関に所属している場合があるため、複数回答を可能とする。 ・アンケートの締切りを 7 月末日とする。 【アンケート配布先】 ・たからづか支援学校…PTA の集まりがあれば配布可能。予定を確認する。 ・保育企画課…保育所へ配布する。 ・教育委員会…各小中学校の特別支援学級の方へ、配布を呼びかける。 ・幼児教育センター…公立幼稚園なら配布可能。私立は集まりがなく難しい。 ・県立こやの里特別支援学校…学校全体で配布する。 ・聖隷はぐくみ花屋敷…特定相談支援所連絡会で相談員へ周知し、配布。 ・事務局…アンケート配布に協力してもらえる委員へ個別に配布方法等の確認を行った後、各機関・関係者へ配布する。
--	---

第 2 回 こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 8 月 4 日(月) 13:30～15:00 会議室 B 及び ZOOM
出欠者	出席者:15 名・事務局:5 名 欠席者:2 名
議題	内容(決定事項等について)
1.委託相談の 会議見学につ いて	自立支援委員会各部会の全体把握のため、本日より委託相談の相談員が見学で参加する。
2.たからっ子ノ ートアンケートに ついて	【進捗状況の共有】 ・7/14(月) 障碍(がい)福祉課より依頼文を添えて各機関へ配布を依頼した。配布時期が遅れたため、アンケートの回答期限を 8/15(金)までに延長した。 ・8/4(月) 午前の時点で約 240 件の回答を確認した。
3.たからっ子お 助けブック案内 ポスターにつ いて	【進捗状況の共有・依頼】 ・「QR コード」は商標登録されていたため、「二次元コード」の訂正シールを貼って配布する。 ・B4 で 200 部準備し、市内の産婦人科・小児科・薬局へ配布を予定。 ・委員へ各所属先でポスターの掲示に協力を依頼。 ・必要枚数の連絡は基幹相談まで。
4.たからっ子ノ	【ワーキングメンバーの選出】

ートの改訂に向けたワーキングメンバーの選出	ワーキングメンバーを選出した。 【改定の実施方法について】 ・アンケート集計後、今秋頃～令和 8 年度に向けて改訂に取り組む。 ・適宜こども部会委員へ確認し意見を反映しながら、ワーキングメンバーを中心に行う。
5.グループワーク	テーマ〈日々、子どもと関わる中で感じる課題・困り事について〉 事前に事務局と 3 役で行った会議では、引きこもり・ネグレクト・孤立・発達特性がある子についての意見があり、どのような機関がどのように支援を行っているのか可視化することを話し合ったことを共有する。 学校関係、福祉・相談関係、行政関係の 3 グループに分かれて意見交換を行った。
6.次回について	・アンケートの集計結果をもとに、たからっ子ノートの改訂に向けて協議を行う。 ・第 2 回こども部会で集まった意見をもとに、サブテーマについて検討する。

第 3 回こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 10 月 6 日 13:30～15:003A 会議室および ZOOM
出欠者	出席者:13 名・事務局:5 名 欠席者:4 名
議題	内容(決定事項等について)
・たからっ子ノートアンケート結果の振り返り	事務局よりアンケート結果の概要説明。 たからっ子ノートの利用者(保護者)より 293 件の回答があった。
・グループワーク	テーマ:たからっ子ノートをより良いものにするために 学校関係、福祉・相談関係の 2 グループに分かれ、所属している現場の感覚を踏まえて意見交換を行った。 グループワークで出た意見 <学校関係グループ> ・保護者や子どもたちが様々な場所や用途で使えるものにしたい。 ・必要な情報を網羅できるものにしたい。 ・和暦や西暦でなく、年齢で表記していると分かりやすい。 <福祉・相談関係グループ> ・成長過程でいつ何ができるようになったかを保護者が忘れている場合、ノートを振り返って書く際に支援者のサポートが必要となっている。 ・たからっ子ノートを渡されるタイミングで保護者が受容できるか、関係性が大切になる。保護者の受容が難しい場合、「ノートを書いてください」と言いにくい。

	・学校に行けていない子だと先生が記入できず、保護者に記入を任せることになってしまう。 ・利用者、支援者それぞれの活用マニュアルや研修があれば良い。 上記の内容を踏まえてワーキングメンバーを中心に内容を深め、委員の方々の意見を取り入れながら改訂を目指していく。
・たからっ子お助けブックについて	・2025 年度より、1 歳半健診で配布をしている。 ・市内 8 ヶ所の産婦人科へ、たからっ子お助けブック・周知用ポスターともに配布済み。 ・今後の関係機関への周知方法 小児科：訪問し、たからっ子お助けブック・周知用ポスターを配布予定。 教育機関（私立含む）：周知用ポスターを配布予定。

第 4 回こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和 7 年 12 月 1 日 13:30～15:00 会議室 B および ZOOM
出欠者	出席者：10 名・事務局：5 名 欠席者：7 名
議題	内容（決定事項等について）
・11/21（金）開催 ワーキング会議からの報告	<たからっ子ノート改訂のコンセプト> ・書きやすい、書きたくなるノートにする。 ・振り返った時に、色々な人が関わり支えられて生きてきたことが分かる、子どもが将来読んで嬉しくなるようなノートにしたい。 <検討事項> 現在、教育支援委員会や加配の申請のためにたからっ子ノートを記入している。 申請時に外せない項目や内容の追加、省略については適宜相談していく。
・グループワーク	テーマ：たからっ子ノートの改訂に向けて 他市のサポートブック（神戸市・西宮市・川西市・尼崎市・西淀川区・板橋区・名古屋市・札幌市）を閲覧し意見交換を行う。 グループワークで出た意見 <学校関係グループ> 現行のたからっ子ノートの内容について ・福祉の相談歴、訓練歴を記入する欄が少ない。 ・「既往歴」や「現病歴」といった言葉は、馴染みがなく分かりづらい。

	・てんかん、アレルギーについて記入する欄が小さい(1-3も同様)。 ・保護者からの記入欄があると分かりやすい。レイアウトを工夫してみてもどうか。 他市のサポートブックを見て ・他市のように書き方の見本があると分かりやすい。 ・全体的に書類っぽさがあるため、字体や雰囲気がもう少し柔らかくなると書きやすい。手続き等でも利用するため、必要な情報は抜けがないようバランスを取ることが必要。 ・AIを活用し、他市のサポートブックの良いところを取り入れてみてはどうか。 <福祉・相談関係グループ> 現行のたからっ子ノートの内容について ・予防接種の項目は成長過程において必要な情報であるか、今後の検討課題とする。 ・手帳の欄だけでなく、診断を受けた医療機関を書く欄があると分かりやすい。 ・固定の情報とアップデートの必要がある情報が混在してしまっている。 ・医療の記録は、ファイリングしやすいよう書類に入れられるポケット式にしてはどうか。 ・他市のものに比べ文字が小さく、1ページあたりの情報量が多い。 他市のサポートブックを見て ・保護者の思いや本人の願いを書く欄は、振り返った時に嬉しい(西宮市参考)。 ・休日の過ごし方やタイムスケジュールを書くページは、支援者も普段と違う一面を知ることができる(尼崎市参考)。 現行のたからっ子ノートは、一度書いてそれきりになってしまっている。成長に応じて書き加えていきやすい形にすることが課題となっている。
--	--

第5回こども部会 会議議事録	
日時・場所	令和8年2月2日 13:30~15:00 会議室BまたはZOOM
出欠者	出席:13名 事務局:4名 欠席:5名
議題	内容(決定事項等について)
・たからっ子ノート	<事務局より報告>

の改訂について	・AI を使用して他市のサポートブックの内容の精査を試みたが、たからっ子ノートの改訂に用いることができる形に至らなかった。 ・事務局にて、たからっ子ノートと他市のサポートブックの比較およびアンケート結果の振り返りを行った。 <今後の取り組み> たからっ子ノート改訂のテーマとなるキーワードと方針を共有し、今回出席者委員の同意を得た。 次年度に向けて、ワーキンググループでの検討を進めていく。 【ワーキング会議日程】 ・2/27(金) 13:00～15:00 場所:基幹相談支援センター ・3/19(木) 9:30～11:00 場所:基幹相談支援センター
・グループワーク	議題:今年度のこども部会を振り返って・来年度話し合いたいテーマについて グループワークであがった意見 <福祉・相談関係グループ> <u>保護者が子の障害(がい)特性を理解することが難しい。</u> ・保護者自身に発達特性があるため、子の障害(がい)特性の受容が難しい。 ・保護者向けの障害(がい)に関する研修の情報を、保護者が見つけることができていない。 ・そもそも保護者が研修を必要としておらず、SNS から情報収集をすることが主流になっている。 <u>法に触れるような行動への対応について、どうしているのか</u> ・子からの暴力といった緊急時に、どのように対応をしたらよいかを事前に保護者に伝えている。 ・コグトレを用いたり、警察に指導を依頼することで、問題行動が落ち着いたケースがあった。 ・支援内容を共有することで、自分たちの支援の参考になることもあるのではないか。 <学校関係グループ> <u>5歳児健診を受ける人が少ない。</u> ・5歳児健診を受けることで、障害(がい)の早期発見につながるきっかけになり得る。 ・小学校に上がる前に、情報共有やつながりをつくることができる。子が小学校で適切な配慮を受けるため、必要性が高い。 <u>教育と福祉の連携が十分にできていない。</u>

・次年度のこども部会について	・小学校では SSW に相談していることが多いが、福祉に繋がっていない場合がある。 ・教育支援課と社協が主催となって教育と福祉の交流の場を設けられており、少しずつ連携に向けての動きはある。 ・教育と福祉が上手く繋がれば、将来のひきこもり予防に繋げやすくなるのではないかな。 ・こども部会の参加者が委託相談について知ることが、連携のきっかけになるのではないかな。(参加者全員に委託相談のチラシを共有した) ・たからっ子ノートの改訂については、ワーキンググループを中心に検討、部会にて委員へフィードバックを行う。 ・まずはこども部会に参加している委員が教育と福祉の連携について考えていく。その方法として、参加者が支援した事例を共有し、自らの支援を考えるきっかけにしていく。
-----------------------	--

【今後について】

委員からの意見を集約し、ワーキンググループを中心とした協議を行っていく。

来年度を目途に改定案の具体的な内容をまとめ、より使いやすく、本人のためになるたからっ子ノートを目指していく。

並行して、委員が業務で課題と感ずることや、部会で取り上げたいテーマを集約し、次年度の検討事項とする。

令和7年度 宝塚市自立支援協議会事務局会議 会議議事録			
会議名	宝塚市自立支援協議会 事務局会議	場所	市役所3階 3B会議室 他
		開催 日時	10:00～12:00
議題	内容（決定事項等について）		
開催日	4月 9日（水） 5月14日（水） 6月11日（水） 7月 9日（水） 8月13日（水） 9月10日（水） 10月 8日（水） 11月12日（水） 12月10日（水） 1月14日（水） 2月18日（水） 3月11日（水）		
定例報告	・各地区における新規相談件数の報告 ・各月の地域活動報告、情報交換 ・自立支援協議会専門部会、特定相談支援事業所連絡会の報告 ・グループ活動の取組 ・一人一言トピックス		
前年度との変更点	・グラドルールを設け、委員の発言が活性化するよう環境調整した。 ・地域課題の抽出のスマールステップとして、地域活動や日々の支援で感じることを、「一人一言トピックス」というテーマで発表する時間を設けた。 ・新たに事務局内において、地域移行、他職種連携、地域活動、防災、人材育成のグループを立ち上げ、基幹相談支援センターと各委託相談支援事業所が活動をしている。		
今後について	・地域課題の抽出を目的として、「一人一言トピックス」の意見を参考に、2月18日に検討を深めていく。 ・次年度に向けて、相談支援の体制整備を目的に、警察、保健所、近隣の医療機関（総合病院16機関、精神科病院10機関、精神科クリニック12機関、）や市内の小中学校（特別支援を含む）を訪問予定。また、委託相談の圏域において、障害（がい）当事者等が参加できる地域活動についての実態把握を進めている。引き続き防災マップの作成や、地域移行支援に関するパンフレットの作成を行い、障害（がい）のある人が自立し、安心して暮らせるまちづくりを目指して活動している。 ・自立支援協議会の事務局として、各部会の調整等の橋渡しとしての機能の強化を目的に、委託相談が各専門部会や特定相談支援事業所連絡会に傍聴し、自立支援協議会の全体像を把握に努めた。 ・相談員の質の向上のために、クローバー宝塚と連携し、11月18日と12月3日に市内相談員向けに、面接技術の向上を目的とした研修を行った。次年度も開催予定。		

令和7年度 宝塚市自立支援協議会 特定相談支援事業所連絡会 活動結果報告			
会議名	宝塚市自立支援協議会 特定相談支援事業所連絡会	場所	市役所第2庁舎 会議室A・B他
		開催日時	13:30～15:00
議題	内容（決定事項等について）		
開催日	4月22日・5月27日・6月24日・7月29日・8月26日・9月30日・10月28日・11月25日・12月23日・1月27日・2月24日・3月24日		
定例報告	・ 障碍（がい）福祉課福祉サービスチームより支給決定に関する連絡及び質疑応答 ・ 基幹相談支援センターより情報提供 ・ 各事業所からの連絡事項・周知等について ・ 自立支援協議会専門部会の報告		
体制について	① 特定相談支援事業所による企画及び進行の試験運用 従前より基幹相談支援センターが企画及び進行を行っていたが、相談支援専門員からの課題抽出や、調整機能の向上を図る目的として、特定相談支援事業所が司会進行を担当する会を2回設けた。 ② 委託相談支援事業所等との相談体制の強化 委託相談支援事業所が輪番制で参加し、グループワークのファシリテーターを担うことで、特定相談支援事業所との双方の情報共有と連携を図る場として位置付けた。		
相談員向けの研修等について	① オーバー連絡の電子申請の開始（9月30日 障碍（がい）福祉課） ② 生活保護法についての研修（10月28日 生活援護課 職員） ③ 成年後見制度についての研修を開催（12月23日 ぱあとなあ兵庫 荻野 篤氏（社会福祉士）） ④ 主任相談支援専門員との次年度連携について（1月27日）		
今後について	基幹相談支援センターが調整し、相談支援の中核的人材である主任相談支援専門員、委託相談支援事業所、特定相談支援事業所において、特定相談支援事業所連絡会の企画、運営を行っていく。継続して相談支援専門員の質の向上に向けた取組や地域課題を抽出できる仕組みの検討を進める。		